

**富士ソフト株式会社**

**Open XMLを活用し、オフィスワーク・イノベーション・ソリューションの拡充を図るITソリューションベンダー、富士ソフト株式会社**

**マイクロソフト製品の高い技術力を背景に各種ITソリューションサービスを提供している富士ソフト株式会社。Microsoft Office SharePoint® Server 2007を中心に展開する”オフィスワーク・イノベーション・ソリューション”の拡充図る同社にOpen XMLテクノロジーの利点と応用範囲を聞く。**

**IT ソリューションベンダーへの
シフトを図る第二の創業**

****

富士ソフト株式会社は、1970年の創業以来、ソフトウェアの受託開発を中心に成長を続けてきた国内有数の独立系システムインテグレーターである。専門技術者集団として、システムインテグレーション事業を行うIT事業本部、携帯電話・デジタルテレビ等への組み込み技術に特化したシステム事業本部、データセンター事業を担うアウトソーシング事業本部、医療・セキュリティ等差別化ソリューションを持つソリューション事業本部、そして近年力を入れている分野の一つである映像事業部においてはスタジオ等のハードウェア面にもおいても有数の設備を誇っており、受託開発からITソリューションベンダーへの飛躍を遂げている。富士ソフト株式会社IT事業本部インフラソリューション事業部 事業部長の保坂氏は、第二の創業と位置づけられたITソリューションンベンダーへのシフトに至った経緯を次のように語る。「弊社では、従業員の多くが技術者という背景から、お客さまニーズに即した受託作業を中心に事業を展開して参りました。しかしながら、受託開発に依存したこれまでの形態では更なる成長を求めることが困難なことから、ITソリューションベンダーとして、よりお客様に近いところでサービスを展開して行くことを始めております。」

富士ソフト株式会社
IT事業本部
インフラソリューション
事業部
事業部長
保坂 英郎 氏

事業部長

**高い技術力を背景にしたマイクロソフト
ソリューションの提供**

マイクロソフト製品を中心としたITソリューションにおいては、製品リリース前のベータ段階からの最新技術の蓄積により技術面の整備を行い、また、営業面においてもマイクロソフト製品選任の営業部隊も組織している。現在では、その蓄積された技術力を活かし、Office SharePoint Server 2007によるポータル構築、ドキュメント管理、Microsoft Office Project Server 2007の導入サービスなどを積極的に展開している。また、2007 Office アプリケーション、Windows Vista®を中心に“Windows バージョンアップサービス”という名称で、最新製品へのバージョンアップ、移行・展開サービスを提供しており、サーバーソリューションからデスクトップソリューションまで、高い技術力を背景に幅広いサービスメニューを有している。

**Windows バージョンアップサービスによる
スムーズな最新デスクトップ環境への移行**

Windows バージョンアップサービスでは、企業規模にかかわらず、数百台から数千台の最新バージョンへの移行に対して、計画の立案のみの参加から、改修、配布に至るトータルな移行・展開サービスを提供している。以前のバージョンのOfficeアプリケーションから2007 Office アプリケーションへの移行・展開ビジネスの引き合いも増えているWindows バージョンアップサービスについて、保坂氏はこう語る。「以前のバージョンのOfficeアプリケーションをお使いのお客様が最新バージョンへ移行する際、お客様が作りこまれたMicrosoft Office AccessTM データベースやMicrosoft Office Excel® のVisual Basic for Application（VBA）プログラムが最新バージョンにおいても正常に動作するかどうかというのは、お客様にとって重要な問題になる場合があります。Microsoft Office Word文書やExcelスプレッドシートファイル、また、Microsoft Office PowerPoint®のプレゼンテーションファイルであれば、移行によるレイアウトの崩れや、桁ずれを発見時にその場で修正することも可能ですが、AccessデータベースやVBAが十分な検証がされずに移行が行われた場合、問題発生時に作成者でなければすぐに対応できない場合があります。そこで、私どもではアセスメントサービスである互換性の検証を、最初に行うことをお勧めしております。自社オリジナルの互換性検証ツールを用いて、事前に問題が発生する可能性のあるファイル及び該当コード、更には、改修に役立つヒントまでをレポートにしてご提供いたしております。それによりお客様は少ない負担で、移行に関する課題を事前に知ることができ、改修のヒントに基づいてお客様自身で対応していただくことも可能になるのです。」

**Open XMLを活用し、システムフロントエンド
としてのOfficeアプリケーションを拡張**

Office アプリケーション、特にExcel を、基幹システムを含む業務システムのフロントエンドとして活用したい顧客は多く、そのような場合には、VBAでプログラム開発を行うケース、CSVなどの別ファイルに一旦エクスポートし、処理するケースが多い。保坂氏は、Open XMLを利用することによる利点を次にように語る。

****

**企業紹介**

**会社プロファイル**

**富士ソフト株式会社**

携帯電話、自動改札、電子決済から交通・航空管制まで、時代の最先端分野で富士ソフトのITソリューションが採用されています。さまざまな業種・業態の専門知識をふまえ、コンサルティングから、ソフトウェア開発、システム導入、そして運用・保守といった領域まで、お客様の情報化戦略のニーズに、高度な技術力と信頼性を備えたソリューションをご提供いたします。

**会社サイトURL**

**http://www.fsi.co.jp/**

**Ecma Office Open XML** に関する情報については、**http://www.microsoft.com/japan/interop/openxml/default.mspx** をご覧ください。

※ Microsoft , SharePoint Server, SQL Server ,Visual Studio ,Excel, Power Point , Visio , InfoPath , Officeロゴ は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※ その他、記載されている情報等は、マイクロソフトのパートナー各社における製品、サービスおよびソリューションであり、それに付随するロゴは商標または登録商標です。

※ 本リーフレットの内容は 2007 年 12 月現在のものです。

**製品に関するお問い合わせは、次のインフォメーションをご利用ください。**

■ インターネット ホームページ　 <http://www.microsoft.com/japan/>

■ マイクロソフト カスタマー インフォメーション センター　0120-41-6755

（9:30 ～ 12:00、 13:00 ～ 19:00 土日祝日、弊社指定休業日を除きます）※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

**■ご購入に関するお問い合わせは、マイクロソフト認定パートナーへ**

■ マイクロソフト認定パートナー　<http://www.microsoft.com/japan/partners>

  

〒 151-8583　東京都渋谷区代々木 2 丁目 2 番地 1 号　小田急サザンタワー



「Open XMLを活用することにより、いままで苦労していたプログラム開発やシステム構築をより簡単に実現できるようになりました。従来のバイナリファイル形式では、ファイルの内容をそのまま抜き出して他のシステムと連携させるためには、プログラミングの工数もかかり、また、一般には広く普及していない技術を駆使する必要がありました。Open XMLは仕様が公開されており、他のシステムとの連携などの面では、従来のバイナリファイル形式とは比べ物にならないほど可能性が広がったと考えています。.NETベースの開発の高い生産性と併せ、当社の生産性も向上し、お客様には、コスト面と機能面の両方のメリットを提供できると自負しております。今後は、2007 Office アプリケーションの拡張をより簡単に行えるVisual StudioⓇ 2008 をベースとした開発による生産性向上を目指します。」

**Office SharePoint Server 2007を中心とした
オフィスワーク・イノベーション・ソリューション**

同社では、Windows バージョンアップサービスを利用し、スムーズに最新の2007 Office アプリケーションを導入されたお客様には、Office SharePoint Server 2007 の導入を併せて提案しているという。Office SharePoint Server 2007 をドキュメント管理のプラットフォームとして活用することで、ファイルの多角的な利用が容易になるためである。同社では、”オフィスワーク・イノベーション・ソリューション”というOffice SharePoint Server 2007 を中心としたシステム構築サービスを提供しており、今春リリース予定の”スターターキット（仮称）“により、まずは、”スモールスタート”すなわち、小規模から利用を開始し、規模を広げていくという顧客の要望に対応していく。「Office SharePoint Server 2007を導入したいが、まずはスモールスタートで始めたいという要望はこれまでにも非常に多くのお客様からいただきました。この様なご要望にお応えすべく、予定表や掲示板などニーズの高い標準的なパーツをテンプレート化した、キットをご提供してまいります」。

現状のワークフローテンプレートや複合機連携といったオフィスワーク・イノベーション・ソリューションのサービスメニューの拡張を検討中であり、その中には、Open XMLを活用したメニューも含まれている。「Office ドキュメントをOffice SharePoint Server 2007のドキュメントライブラリへアップロードした際に、自動的にファイルの内容を解析し、必要なデータのみ基幹システムへ送ったり、またワークフローを実行したり、といった今までは人の手を介して行っていた業務を、ドキュメントファイルをライブラリにアップロードするだけで実行できるようにするといったものです」とOpen XMLの活用案を保坂氏は語る。

このように、同社では、オフィスワーク・イノベーション・ソリューションのサービスメニューを充実させることにより、Open XMLという主にデスクトップアプリケーションで活用されるテクノロジーとOffice SharePoint Server 2007のサーバーテクノロジーを連携させ、顧客へ提供する付加価値をより高め差別化を目指して行くという。さらに、Windows Server 2008、 SQL Server® 2008など今後リリースされる製品群についても、サーバー移行、ビジネスインテリジェンス、システム管理など総合的なソリューションメニューの拡充を計画している。